富山県の雪対策の歩み

富山県生活環境文化部県民生活課

はじめに

富山県は、過去に昭和38年、56年と豪雪に見舞われ、また、59～61年は3年連続の大雪を経験いたしました。

私たちの先人は、古来より雪に順応し、雪に耐える生活を続けてまいりましたが、都市化やモータリゼーションの進展などの社会構造の変化に伴い、「雪」は、私たちの生活にさまざまな影響を及ぼすようになりました。特に、昭和55年末から昭和56年にかけてのいわゆる56豪雪は、県民生活や産業活動に大きな被害をもたらしました。

この56豪雪、そして59豪雪の教訓を活かして、富山県は昭和60年3月に道府県としては全国で初めて「富山県総合雪対策条例」を制定しました。これは、雪による障害を克服することのみならず、雪のもたらす恵みを利用し、親しむことも取り込んだ画期的なものでありました。

以来20数年、富山県では、雪による県民生活や社会活動への障害を克服する「克雪」の施策とともに、雪に親しみ、また雪を資源として利活用するなど、「親雪」、「利雪」の施策を計画的かつ総合的に推進してまいりました。

また、本県では、全国に先駆けて実施した雪対策の施策や、調査研究事例が多く、その成果は、国の新たな補助制度の創設や、雪に関する研究機関の設立に反映されてきました。

このような富山県の先駆的な取り組みは、平成4年の豪雪地帯対策特別措置法の改正による道府県豪雪地帯対策基本計画制度の創設に反映されました。

今回、これまでの富山県の雪対策の歩みを県民のみなさまとともに振り返り、また、全国から「ゆきみらい」に参加いただいたみなさまに私たちの仕事の一端をご紹介します。

高岡市雨晴海岸からの立山連峰の眺望

雪対策の夜明け

1950~70 年代

昭和31年、国において「積雪寒冷特別地域における道路交通の確保に関する特別措置法（雪寒法）」が制定され、ようやく雪国における道路交通の確保に目が向けられるようになりました。

とりわけ、昭和38年のいわゆる38豪雪は、私たちの生活を直撃し、大混乱に陥れました。その中で私たちは、道路除雪の必要性と重要性を痛感させられました。

38豪雪は、その後の道路除雪・克雪技術のスタートとなったことから、『道路除雪元年』と言われています。

県史上最大の雪害に

住宅全半壊は十六
被害総額五億円に達す

あす富山へ機械化部隊
ブルドーザーなど35両
死傷 不明十三人
除雪へ県民総ぐる

県豪雪対策本部が発足
「災害救助法」適用せず
本部長には吉田知事

年	雪対策の歩み
1956（昭和31）	●「積雪寒冷特別地域における道路交通の確保に関する特別措置法（雪寒法）」制定
1957（昭和32）	●県管理道路で初めてスノーシェッドを設置（県道庄川河合線旧利賀村栗当地内）
1959（昭和34）	●富山県内で国による除雪が始まる
1962（昭和37）	●「豪雪地帯特別措置法（豪雪法）」制定
1963（昭和38）	●**38豪雪**
1964（昭和39）	●豪雪地帯対策基本計画策定
1969（昭和44）	●県で初めてロータリー除雪車を導入
1970（昭和45）	●道路維持課に雪寒対策係設置
1971（昭和46）	●県内初の消雪パイプを設置(県道富山立山公園線富山市石金地内) ●県で初めて歩道用除雪車を導入
1975（昭和50）	●初期除雪の出動基準を15cmに定める
1978（昭和53）	●補助国道の歩道除雪の試験的試行が開始
1979（昭和54）	●道府県道の歩道除雪の試験的試行が開始
1980（昭和55）	●富山大学理学部に雪氷講座開設

富山県で初めて設置されたスノーシェッド（県道庄川河合線旧利賀村栗当地内）

38豪雪

昭和40年代の歩道用除雪車

昭和40年代のロータリ除雪車

富山市旧公会堂前交差点

高岡市御旅屋通り

38豪雪の状況

ひどい雪道

「三八豪雪」に迫る
交通網、ズタズタ
北陸線は無ダイヤ状態
富山で142センチ、高岡125センチ

●…国の動き　●…全国先駆け事例、全国初の事業採択　●…その他

写真および記事の一部：北日本新聞社提供

雪に強いいきいき富山の創造に向けて　1980年代

38豪雪以来、県では除雪機械を増やし、また消雪パイプやスノーシェッドなどの雪対策施設を整備し、道路の雪対策は着実に進展しました。

しかし、昭和56年に56豪雪が襲来、さらに59年から3年続けて大雪に見舞われ、雪対策に対する総合的な取り組みの必要性を改めて認識いたしました。

このため、県では、昭和60年に全国で初めての「富山県総合雪対策条例」を制定し、これに基づき「富山県総合雪対策基本計画」を策定して、県民総ぐるみによる雪対策がスタートしました。

道路の雪対策については、機械除雪に加えて消雪パイプなどの施設整備が急速に進められ、また、線の雪対策から無雪害街づくりに代表される面の雪対策へと転換を遂げた時期でもあります。

さらに、雪に強い住宅の普及のための低利融資制度の拡充や地域ぐるみ除排雪活動を支援する制度の創出など、ソフト面の施策の推進にも努めてきました。

また「親雪・利雪」では、雪に関するイベント事業などに対する補助制度を創設するとともに、いきいき富山冬のキャンペーン事業を開始するなど、県民のみなさんが雪に親しむ機会を増やし、雪を利用する調査研究にも力を入れました。

年	雪対策の歩み
1981（昭和56）	●**56豪雪** ●富山県総合雪対策研究会議設置 ●富山県総合雪対策研究基金設置 ●克雪・利雪技術の研究開発がスタート ●富山県無雪害街づくり事業を創設
1982（昭和57）	●流雪溝の面的整備が開始 ●「スノートピア道路事業」（旧井波町、朝日町）採択、事業着手 ●富山県住みよい家づくり資金融資制度創設 ●富山県地域防災計画「雪害編」策定
1983（昭和58）	●スノーレス下水路着手（旧井波町 モデル事業採択全国初） ●初期除雪の出動基準を10cmに改定、レベルアップを図る
1984（昭和59）	●**59豪雪** ●富山県総合雪対策推進会議設置 ●降雪予測システムの開発着手
1985（昭和60）	●**60大雪** ●道府県レベルでは初めての「富山県総合雪対策条例」を制定 ●富山県総合雪対策基金設置（総合雪対策研究基金を拡充） ●「富山県総合雪対策基本計画」がスタート ●市町村が地域住民と連携する除排雪体制の整備に補助する地域ぐるみ除排雪促進事業がスタート ●雪崩対策事業着手（旧山田村 補助事業採択 全国初）
1986（昭和61）	●**61大雪** ●県内初の下水処理水を利用した消雪パイプを設置（県道富山魚津線富山市浜黒崎地内） ●圧雪処理に有効な大型グレーダを配備 ●いきいき富山冬の観光キャンペーンがスタート ●第1回冬季県民レクリエーション大会開催
1987（昭和62）	●雪対策ダム事業創設 ●除雪情報システムの開発がスタート
1988（昭和63）	●豪雪地帯対策基本計画変更 ●富山土木事務所管内に積雪センサー1基を設置 全国で初の除雪情報システムの試験実施 ●日本雪氷学会創立50周年記念富山講演会開催
1989（平成元）	●全土木事務所管内に積雪センサーを設置、富山県道路除雪情報システムの本格稼動がスタート ●雪国快適環境整備事業採択（旧井波町） ファミリースキー場の整備に着手
1990（平成2）	●「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律（スパイクタイヤ規制法）」の制定 ●「消流雪用水導入事業」（千保川）採択、事業着手 ●雪美のひろばスノーアートとやま開始（県庁前公園）

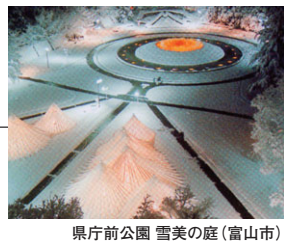
56豪雪時の排雪状況

59豪雪時の地域ぐるみ除排雪
（県道富山高岡線高岡市野村）

昭和60年策定
富山県総合雪対策基本計画

下水処理水を利用した消雪パイプ
（県道富山魚津線富山市浜黒崎）

国土庁事業で整備したペアリフト
（南砺市（旧井波町）閑乗寺スキー場）


県庁前公園 雪美の庭（富山市）

●…国の動き　●…全国先駆け事例、全国初の事業採択　●…その他

写真および記事の一部：北日本新聞社提供

克雪、そして親雪・利雪へ

1990年代

昭和50年代半ばから幾度となく襲った豪雪を教訓として、「富山県総合雪対策基本計画」に基づく雪対策を計画的かつ総合的に推進してきた結果、道路の除排雪をはじめとする克雪対策は、平年並みの降積雪に十分対応できるまでになりました。

また、親雪活動についても、県内市町村において、数多くの冬の催し物が開催され、多くの県民のみなさまの参加が得られるまでになりました。

下水処理水を利用した無散水消雪
（県道朝日宇奈月線旧宇奈月町　宇奈月トンネル付近）

年	雪対策の歩み
1991（平成3）	●「新富山県総合雪対策計画（基本計画）」がスタート ●トンネル湧水を利用した消雪パイプを設置 （国道304号旧平村梨谷地内） ●消雪パイプ更新モデル事業（旧福光町）を県道で実施（補助採択 全国初）
1992（平成4）	●豪雪法改正 （道府県豪雪地帯対策基本計画制度の創設、「利雪」が法律用語に） ●繁華街のスクランブル交差点で無散水消雪工を施工 （県道富山立山公園線富山市西町交差点） ●第8回日本雪工学会富山大会開催（富山市）
1993（平成5）	●富山県豪雪地帯対策基本計画策定 ●特別豪雪地帯雪対策モデル事業（旧宇奈月町）採択 温泉水を利用した無散水消雪工を整備 ●布施川ダム、城端ダム完成（全国で最初の雪対策ダムの完成）
1994（平成6）	●冬期の快適な歩行者空間を確保するため 交差点等の水はね対策を実施
1995（平成7）	●特別豪雪地帯雪対策モデル事業（旧城端町）採択 流雪溝管理情報システムを整備 ●雪国快適環境総合整備事業（旧平村）採択 クロスカントリースキー場の整備に着手
1996（平成8）	●路面凍結予測システムの運用開始 ●県レベルでは全国初めて県有除雪車にICカードシステムを導入 ●個性と活力に満ちた雪国創造事業（旧庄川町）採択 体育館整備に着手
1997（平成9）	●雪の特性解明と利雪に関する高度研究着手 （科学技術庁の地域先導研究に富山県提案課題が採択）
1998（平成10）	●コスト縮減の観点から消雪パイプの塩ビ管使用について 試験施工を開始 ●湿式凍結防止剤散布車を導入
1999（平成11）	●豪雪地帯対策基本計画変更 ●「特別豪雪地帯対策モデル事業」（八尾町）採択 CATV回線を利用した消融雪管理情報システムを整備 ●積雪情報、路面画像等のインターネットによる情報提供を開始
2000（平成12）	●ゆきみらい2000とやま開催（富山市） ●2000年とやま国体冬季大会開催

平成7年導入の400psロータリー除雪車

路面凍結感知センサー

消雪パイプへの塩ビ管使用

道路情報表示板（立山町芦峅寺）

●…国の動き　●…全国先駆け事例、全国初の事業採択　●…その他

写真および記事の一部：北日本新聞社提供

雪とのよりよい関係をめざして　2000～年代

2000年以後、全体的には少雪傾向にあるとは言いながら、平成13年に魚津市を襲った局地的な大雪や全国的に多数の死傷者を出した平成18年豪雪など、雪の降り方は年によって異なり、気象条件によっては冬期の道路交通に一時的に障害が発生しています。

また、少子・高齢化、情報化、地域間交流の進展など、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化してきており、雪対策についても、これらの時代変化を踏まえた対応が求められてきました。

このため、県では、高齢者住宅への除排雪支援や除雪ボランティア制度の充実強化を図るとともに、平成19年4月に策定した富山県総合計画「元気とやま創造計画」においても、「雪に強いまちづくり」を政策の一つとして掲げ、降積雪時においても産業経済活動や県民生活が円滑に進められるとともに、様々な雪文化が継承されるよう、鋭意取り組んでいます。

近年の暖冬傾向により、雪への備えや対策がゆるみがちとなることから、引き続き、県民意識の高揚を図るとともに、高齢化世代等の増加、また、短期的・局地的な大雪にも十分対応できる雪対策をしっかりと進めていくこととしています。

年	雪対策の歩み
2001（平成13）	●富山県総合雪計画（第3次計画）スタート ●携帯電話での路面情報提供開始 ●「富山県元気な雪国づくり事業」創設 ●北陸雪氷技術シンポジュウム開催（富山市）
2002（平成14）	●スポット除雪2箇所で開始 ●県内で初めて固定式凍結防止剤散布装置設置（氷見市）
2003（平成15）	●富山県総合雪対策条例改正（9月） ●除雪モニターの試行をスタート（26名） ●市街地部における連携除雪開始（富山市、高岡市） ●地域総合福祉支援事業（ケアネット型活動）開始
2004（平成16）	●ハンドガイド式小型除雪車補助開始
2005（平成17）	●「雪と汗のひとかき運動」開始
2006（平成18）	**●平成18年豪雪** ●豪雪地帯対策基本計画の変更 ●県・市町村社会福祉協議会と連携し、除雪ボランティア制度の開始
2007（平成19）	●富山県総合計画 「元気とやま創造計画：みんなで創ろう！人が輝く元気とやま」策定（4月） ●富山空港で冬期就航率改善のための小型気象レーダーの運用開始 ●冬期気象・道路情報について、携帯電話への自動メール配信登録開始
2008（平成20）	●「豪雪地帯市町村における総合的な雪計画の手引き ～市町村雪対策計画策定マニュアル～」策定

国道415号（氷見市）における歩道除雪の協働

雪と汗のひとかき運動（スコップ配置）

富山空港小型気象レーダー

富山県雪期道路情報システム（ホームページ）

高岡 25年ぶり100センチ超

県内 断続的に雪、交通乱れる

豪雪対策本部を設置

南砺市 雪下ろし助成も拡大

南砺市は八日、豪雪対策本部（本部長・溝口市長）を設置した。雪崩が心配されており、国道471号が全面通行止めとなった時点で、災害対策本部に切り替える。

全面通行止めの可能性があるのは、471号の湯谷―北豆谷間と県道利賀―河合線の大勘場―桂尾間。湯谷―北豆谷間には二世帯、大勘場―桂尾間にも二世帯が暮らす。利賀行政センターで各世帯と連絡を取り対応する。

井波と利賀を結ぶ471号の通行止めに備え、市は平と利賀を結ぶ市道山の神線、富山市八尾町と利賀を結ぶ国道の確保に全力を挙げる。

市には高齢者世帯などを対象に、近所や業者に依頼して屋根雪下ろしを依頼した際、一回に付き一万円を上限とした助成制度がある。一シーズン二回までだったが、四回までに拡大した。

●…国の動き　●…全国先駆け事例、全国初の事業採択　●…その他

写真および記事の一部：北日本新聞社提供

富山県の雪対策の歩み

はじめに

富山県は、過去に昭和38年、56年と豪雪に見舞われ、また、59～61年は3年連続の大雪を経験いたしました。

私たちの先人は、古来より雪に順応し、雪に耐える生活を続けてまいりましたが、都市化やモータリゼーションの進展などの社会構造の変化に伴い、「雪」は、私たちの生活にさまざまな影響を及ぼすようになりました。特に、昭和55年末から昭和56年にかけてのいわゆる56豪雪は、県民生活や産業活動に大きな被害をもたらしました。

この56豪雪、そして59豪雪の教訓を活かして、富山県は昭和60年3月に道府県としては全国で初めて「富山県総合雪対策条例」を制定しました。これは、雪による障害を克服することのみならず、雪のもたらす恵みを利用し、親しむことも取り込んだ画期的なものでありました。

以来20数年、富山県では、雪による県民生活や社会活動への障害を克服する「克雪」の施策とともに、雪に親しみ、また雪を資源として利活用するなど、「親雪」、「利雪」の施策を計画的かつ総合的に推進してまいりました。

また、本県では、全国に先駆けて実施した雪対策の施策や、調査研究事例が多く、その成果は、国の新たな補助制度の創設や、雪に関する研究機関の設立に反映されてきました。

このような富山県の先駆的な取り組みは、平成4年の豪雪地帯対策特別措置法の改正による道府県豪雪地帯対策基本計画制度の創設に反映されました。

今回、これまでの富山県の雪対策の歩みを県民のみなさまとともに振り返り、また、全国から「ゆきみらい」に参加いただいたみなさまに私たちの仕事の一端をご紹介します。

高岡市雨晴海岸からのエアルプスの眺望

雪対策の夜明け　1950～70 年代

昭和31年、国において「積雪寒冷特別地域における道路交通の確保に関する特別措置法（雪寒法）」が制定され、ようやく雪国における道路交通の確保に目が向けられるようになりました。

とりわけ、昭和38年のいわゆる38豪雪は、私たちの生活を直撃し、大混乱に陥れました。その中で私たちは、道路除雪の必要性と重要性を痛感させられました。

38豪雪は、その後の道路除雪・克雪技術のスタートとなったことから、「道路除雪元年」と言われています。

年	雪対策の歩み
1956（昭和31）	●「積雪寒冷特別地域における道路交通の確保に関する特別措置法（雪寒法）」制定
1957（昭和32）	●県管理道路で初めてスノーシェッドを設置（県道庄川河合線旧利賀村栗当地内）
1959（昭和34）	●富山県内で国による除雪が始まる
1962（昭和37）	●「豪雪地帯特別措置法（豪雪法）」制定
1963（昭和38）	●38豪雪
1964（昭和39）	●豪雪地帯対策基本計画策定
1969（昭和44）	●県で初めてロータリー除雪車を導入
1970（昭和45）	●道路維持課に雪寒対策係設置
1971（昭和46）	●県内初の消雪パイプを設置（県道富山立山公園線富山市石金地内） ●県で初めて歩道用除雪車を導入
1975（昭和50）	●初期除雪の出勤基準を15cmに定める
1978（昭和53）	●補助国道の歩道除雪の試験的試行が開始
1979（昭和54）	●道府県道の歩道除雪の試験的試行が開始
1980（昭和55）	●富山大学理学部に雪氷講座開設

富山市で初めて設置されたスノーシェッド（県道庄川河合線旧利賀村栗当地内）

38豪雪

昭和40年代の歩道用除雪車

昭和40年代のロータリ除雪車

富山市田尻全愛前交差点

高岡市御旅屋通り

38豪雪の状況

ひどい雪道

雪に強いいきいき富山の創造に向けて　1980 年代

38豪雪以来、県では除雪機械を増やし、また消雪パイプやスノーシェッドなどの雪対策施設を整備し、道路の雪対策は着実に進展しました。

しかし、昭和56年に56豪雪が襲来、さらに59年から3年続けて大雪に見舞われ、雪対策に対する総合的な取り組みの必要性を改めて認識いたしました。

このため、県では、昭和60年に全国で初めての「富山県総合雪対策条例」を制定し、これに基づき「富山県総合雪対策基本計画」を策定して、県民総ぐるみによる雪対策がスタートしました。

道路の雪対策については、機械除雪に加えて消雪パイプなどの施設整備が急速に進められ、また、線の雪対策から無雪害街づくりに代表される面の雪対策へと転換を遂げた時期でもあります。

さらに、雪に強い住宅の普及のための低利融資制度の拡充や地域ぐるみ除排雪活動を支援する制度の創出など、ソフト面の施策の推進にも努めてきました。

また「親雪・利雪」では、雪に関するイベント事業などに対する補助制度を創設するとともに、いきいき富山冬のキャンペーン事業を開始するなど、県民のみなさんが雪に親しむ機会を増やし、雪を利用する調査研究にも力を入れました。

年	雪対策の歩み
1981（昭和56）	●56豪雪 ●富山県総合雪対策研究会議設置 ●富山県総合雪対策研究基金設置 ●克雪・利雪技術の研究開発がスタート ●富山県無雪害街づくり事業を創設
1982（昭和57）	●流雪溝の面的整備が開始 ●「スノートピア道路事業」（旧井波町、朝日町）採択、事業着手 ●富山県住みよい家づくり資金融資制度創設 ●富山県地域防災計画「雪害編」策定
1983（昭和58）	●スノーレス下水路着手（旧井波町 モデル事業採択全国初） ●初期除雪の出勤基準を10cmに改定、レベルアップを図る
1984（昭和59）	●59豪雪 ●富山県総合雪対策推進会議設置 ●降雪予測システムの開発着手
1985（昭和60）	●60大雪 ●道府県レベルでは初めての「富山県総合雪対策条例」を制定 ●富山県総合雪対策基金設置（総合雪対策研究基金を拡充） ●「富山県総合雪対策基本計画」がスタート ●市町村が「地域住民と連携する除排雪体制の整備に補助する地域ぐるみ除排雪促進事業がスタート ●雪崩対策事業着手（旧山田村 補助事業採択 全国初）
1986（昭和61）	●61大雪 ●県内初の下水処理水を利用した消雪パイプを設置（県道富山魚津線富山市浜黒崎地内） ●圧雪処理に有効な大型グレーダを配備 ●いきいき富山冬の観光キャンペーンがスタート ●第1回冬季県民レクリエーション大会開催
1987（昭和62）	●雪対策ダム事業創設 ●除雪情報システムの開発がスタート
1988（昭和63）	●豪雪地帯対策基本計画変更 ●富山土木事務所管内に積雪センサー1基を設置 全国で初の除雪情報システムの試験実施 ●日本雪水学会創立50周年記念富山講演会開催
1989（平成元）	●全土木事務所管内に積雪センサーを設置、富山県道路除雪情報システムの本格稼動がスタート ●雪国快適環境整備事業採択（旧井波町）ファミリースキー場の整備に着手
1990（平成2）	●「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律（スパイクタイヤ規制法）」の制定 ●「消流雪用水導入事業」（千保川）採択、事業着手 ●雪美のひろばスノーアートとやま開始（県庁前公園）

56豪雪時の除雪状況

59豪雪時の地域ぐるみ除排雪（県道富山高岡線高岡市野村）

昭和60年策定 富山県総合雪対策基本計画

下水処理水を利用した消雪パイプ（県道富山魚津線富山市浜黒崎）

国土庁事業で整備したペアリフト（南砺市（旧井波町）閑乗寺スキー場）

県庁前公園 雪美の庭（富山市）

克雪、そして親雪・利雪へ　1990 年代

昭和50年代半ばから幾度となく襲った豪雪を教訓として、「富山県総合雪対策基本計画」に基づく雪対策を計画的かつ総合的に推進してきた結果、道路の除排雪をはじめとする克雪対策は、平年並みの降積雪に十分対応できるまでになりました。

また、親雪活動についても、県内市町村において、数多くの冬の催し物が開催され、多くの県民のみなさまの参加が得られるまでになりました。

下水処理水を利用した無散水消雪（県道朝日宇奈月線旧宇奈月町 宇奈月ランド付近）

年	雪対策の歩み
1991（平成3）	●「新富山県総合雪対策計画（基本計画）」がスタート ●トンネル湧水を利用した消雪パイプを設置（国道304号旧平村梨谷地内） ●消雪パイプ更新モデル事業（旧福光町）を県道で実施（補助採択 全国初）
1992（平成4）	●豪雪法改正（道府県豪雪地帯対策基本計画制度の創設、「利雪」が法律用語に） ●繁華街のスクランブル交差点で無散水消雪工を施工（県道富山立山公園線富山市西町交差点） ●第8回日本雪工学会富山大会開催（富山市）
1993（平成5）	●富山県豪雪地帯対策基本計画策定 ●特別豪雪地帯雪対策モデル事業（旧宇奈月町）採択 温泉水を利用した無散水消雪工を整備 ●布施川ダム、城端ダム完成（全国で最初の雪対策ダムの完成）
1994（平成6）	●冬期の快適な歩行者空間を確保するため交差点等の水はね対策を実施
1995（平成7）	●特別豪雪地帯雪対策モデル事業（旧城端町）採択 流雪溝管理情報システムを整備 ●雪国快適環境総合整備事業（旧平村）採択 クロスカントリースキー場の整備に着手
1996（平成8）	●路面凍結予測システムの運用開始 ●県レベルでは全国初めて県有除雪車にICカードシステムを導入 ●個性と活力に満ちた雪国創造事業（旧庄川町）採択 体育館整備に着手
1997（平成9）	●雪の特性解明と利雪に関する高度研究着手（科学技術庁の地域先導研究に富山県提案課題が採択）
1998（平成10）	●コスト縮減の観点から消雪パイプの塩ビ管使用について試験施工を開始 ●湿式凍結防止剤散布車を導入
1999（平成11）	●豪雪地帯対策基本計画変更 ●「特別豪雪地帯対策モデル事業」（八尾町）採択 CATV回線を利用した消融雪管理情報システムを整備 ●積雪情報、路面画像等のインターネットによる情報提供を開始
2000（平成12）	●ゆきみらい2000とやま開催（富山市） ●2000年とやま国体冬季大会開催

下水処理水を利用した無散水消雪（県道朝日宇奈月線旧宇奈月町 宇奈月ランド付近）